



TITLE:

現代中国の農村土地問題に関する
経済学的研究 一流動化と転用一(
Abstract_要旨)

AUTHOR(S):

李, 妍蓉

CITATION:

李, 妍蓉. 現代中国の農村土地問題に関する経済学的研究 一流動化と転用一. 京都大学, 2017, 博士(農学)

ISSUE DATE:

2017-03-23

URL:

<https://doi.org/10.14989/doctor.k20441>

RIGHT:

(続紙 1)

京都大学	博士（農学）	氏名	李妍蓉
論文題目	現代中国の農村土地問題に関する経済学的研究 －流動化と転用－		
(論文内容の要旨)			
<p>中国農村の土地利用は、1980年代から始まった生産請負制の実施以来、農地法制の規制緩和や農業振興政策により、大きく変動してきた。農村の土地は、適正な流動化と転用によって効率的に利用されるべきであったが、農地法制や農業振興政策の変遷に伴い、変遷の段階ごとに、様々な土地利用に関連した問題が噴出してきた。本論文は、その変遷の段階ごとに、特に内陸部の食料生産基地である湖南省を対象として、徹底した現地調査に基づき、内陸部の都市近郊農村の土地利用問題を明らかにしている。</p> <p>まず、第1章で問題の背景を整理したうえで、第2章では、中国農村の土地の集団所有権の形成と構造、そして農地法制と農業振興政策の変遷を検討することによって、農村の土地問題を、3段階に分けて整理している。第1期は、憲法に基づいて農地流動化が禁止されていた段階、第2期は、農地流動化が解禁された段階、第3期は、農地流動化が規範化され、「合作社法」の制定に基づく農業振興政策によって、農民專業合作社の設立を契機とした、農地の集団での統一的な利用が推し進められるようになった段階である。</p> <p>第3章では、第1期の土地利用問題に対応して、湖南省農村での調査データをもとに、「代耕」という非公式な農地流動化に影響を与える要因を分析した。規模の経済に基づく貸借の経済的要因よりむしろ、社会的要因によって流動化が進んでいると考え、「面子」に保持される中国農村独自の社会関係と流動化の進展の関連を、現地での面接調査に基づいて二項logit分析を行った。その結果、中国独自の社会的要因によって、非公式な農地流動化は支えられていることが検証された。</p> <p>第4章では、第2期の土地利用問題に対応して、湖南省長沙市近郊を事例として、違法な農地流動化の実態を紹介した。すなわち、①強制的な農地集積、②商工企業による農地の乱用的な利用、③地方政府による地代の横取り、④裏転用といった問題が一方でありながらも、土地專業合作社によって規範的な流動化も行われている実態を明らかにした。</p> <p>第5章では、第3期に対応させている。そこでは合作社に基づく、社員参加という形での農地の統一的な利用が推し進められるようになった。そこでの土地利用の問題点として、土地への適正投資問題を取り上げている。まず、湖南省における農民專業合作社の実態を調べ上げ、土地利用の形態として、直営農場としての(1)完全統合、また社員参加という形での統一的な土地利用としての(2)完全な合作統合と(3)部分的合作統合、そして(4)契約生産、があることを指摘した。契約生産では農家による土地への投資は行われず、完全統合では合作社が自社農地に適正な投資を行う。一方、合作統合では農家による土地への投資行動が引き出されるが、完全な合作統合では、土地の投資への社員と合作社の分担が行われるのに対し、部分的合作統合では、社員のみが投資を行っている事実を明らかにした。しかし、そのような投資分担の有無によって、土地への適正投資が完全な合作統合では実現されるが、部分的な合作統合では抑制されてしまうことを、ナッシュ交渉解の比較により理論的に指摘している。さらに、現地での500戸を超える社員農家への面接調査に</p>			

よって、適正な投資を行おうとする意向が部分的な合作統合では抑制されているのに対し、完全な合作統合では適正な土地への投資を行おうとする傾向があることを、多変量解析によって示している。

第6章は、無秩序な農地転用の問題に対応させている。この章では、特に深圳市を対象とした事例分析を行っている。法制度が十分に機能していなかったため、国有地化後の合法的な農地転用のみならず、違法な転用が引き起こされ、無秩序な農地転用の状態が続いたことを紹介した。このような状況を回避するため、補章で日本の宇治市の事例を紹介して、中国ではゾーニングの徹底した執行が求められることが主張されている。

最後に第7章で、以上の分析結果から、土地請負法と合作社法の改正、完全な合作統合による農民專業合作社の運営、農地転用市場の整備、ゾーニング制度の導入という中国農村の土地利用への新たな政策提言を行うことによって、本論文をまとめている。

注) 論文内容の要旨と論文審査の結果の要旨は1頁を38字×36行で作成し、合わせて

て、3,000字を標準とすること。

論文内容の要旨を英語で記入する場合は、400～1,100 wordsで作成し
審査結果の要旨は日本語500～2,000字程度で作成すること。

(論文審査の結果の要旨)

中国では、1980年以降の改革開放によって、農村も大きく変化した。とくに農業の基盤である農地は、労働移動に対応した流動化と、都市化に対応した転用が強く求められるようになった。しかしながら、農地法制の不十分さなどの問題から、農地のヤミ市場が存在するなど適正な流動化と転用とはかけ離れた状況となっている。本論文は、中国における農地関連法制と農業振興政策の変遷を整理し、それぞれの段階での農村の土地利用の問題を明らかにして、問題の実態と問題の起こるメカニズム、またその解決策を、経営経済学的に分析しており、激動する中国経済・社会と、それに対応できずに混乱する農村の土地利用問題を分析し、時宜を得た課題に取り組んだ学術論文となっている。評価されるべき点は、以下のとおりである。

1. 筆者が、長期間現場に入り込んで、独自に収集したデータ・資料に基づいた分析が行われている。とくに対象としている湖南省は、中国内陸部の食料生産基地であり、この地域での農村の土地問題を総合的に分析した既往研究はなく、新規性が認められる。当該地域では、社会的な要因が農地流動化に影響を及ぼし、また政府が推し進める農民專業合作社によっても非合理的な土地への投資が行われている実態が明らかにされると同時に沿海部と同様、内陸部でも転用や流動化が進んできていることがわかった。

2. 第3章では、「代耕」という非公式な流動化に影響を与える要因を分析しているが、通常の経済的要因よりも社会的要因が重要な役割を果たしていることを明らかにした。しかも、中国農村社会に独自の「面子」に関連した社会関係から、農地の貸し借りが行われていることが示された。途上国農村では、多くの場合、取引に社会的要因が組み込まれているが、中国独自の社会的要因があることを明らかにし、社会学と経済学の学際領域を扱っており、独創的な見解を示している。

3. 第5章では、農民專業合作社の設立を契機とした、社員参加という形での農地の統一的な利用が推し進められるようになった事例を分析している。農民專業合作社は、農民から農産物を統一的に買い付ける組織であり、買付形態は直接的には土地利用に関係しない。しかし、社員農家が土地へ適正な投資を行うかどうかという視点から見ると、合作社の買付形態が、土地への投資行動を強く規定しているという実態を見つけ出し、その理由を合理的に説明している。農民專業合作社を推し進める現在の中国の農業政策の中で見落とされていた視点を提起する画期的な業績と言える。

4. 農地のヤミ市場や違法な転用など、通常情報収集が困難な領域も積極的に分析しようとしている。公表されていない地方政府の内部資料を丹念に収集し、客観的なデータによって中国での無秩序な転用の実態を明らかにしている。同時に補章で、日本の宇治市での転用の事例分析を行い、これを参照として、中国ではゾーニングを主眼とする土地法制が必要であるという、実践的に意味深い提言を行っている。

本論文は、激変する中国農村の土地利用に対し、農地関連法制と農業振興政策の変遷の段階ごとに問題を探り出し、その実態、特徴、解決策を明らかにしようとしたもので、丹念な現地調査をもとにして、新たな見解を導き出している。本論文により、中国農村の土地利用に関して、農地流動化の社会的要因や農民專業合作社の制度設計が農家の土地投資行動に与える影響など、これまで看過されて

いた問題点と、これらの問題が起きる仕組みが明らかとなった。そのことにより、土地請負法、土地管理法、合作社法の改正提案などを通じて、中国の農村政策に実践的な提言を行うことができる。以上のように、本論文は中国農村における土地利用問題の新たな見解を示した研究であることから、農業経済学、開発経済学、中国経済経営学の発展に寄与するところが大きい。

よって、本論文は博士（農学）の学位論文として価値あるものと認める。

なお、平成29年2月14日、論文並びにそれに関連した分野にわたり試問した結果、博士（農学）の学位を授与される学力が十分あるものと認めた。

注）論文内容の要旨、審査の結果の要旨及び学位論文は、本学学術情報リポジトリに掲載し、公表とする。

ただし、特許申請、雑誌掲載等の関係により、要旨を学位授与後即日公表することに支障がある場合は、以下に公表可能とする日付を記入すること。

要旨公開可能日： 年 月 日以降（学位授与日から3ヶ月以内）